

入 試 年度	2025 年度	入 試 時 期	Ⅱ期入学試験	実施日	2025 年 2 月 21 日
課 程	博士前期課程	研究科	文学研究科	専攻・ コース	臨床人間学専攻教 育学専修
入 試 方式	社会人特別入学試験		試験科目	専門科目	
「解答」または「解答例」及び「出題の意図」					
【解答】 or 【解答例（採点時の観点）】					
[1]					
(1)					
博物館学に関する基本用語を正しく理解し、説明できているかどうかを評価した。					
(2)					
例外的な事例はあるものの、西洋社会において公立・公共のミュージアムが創設されるようになったのは、およそ 100 年、あるいはそれより少し前のことであると言える。その多くは、もともと個人のコレクションを一般に公開したものであり、そのことが明確に示されている限り、先に述べたように、本質的な問題はほとんど存在しなかった。しかし、新たな考え方：民主的ミュージアム、という理念—が導入されたことで、状況は変化した。					
その理念自体はきわめて単純である。すなわち、多様な種類の資料を収集し、それらを一般市民に向けて解釈・提示することによって、人びとの教育を促進し、知識や理解を深め、さらに文化的な楽しみを提供しようとするものである。ところが、これらのコレクションを公のもの、すなわち公的に所有されるものと位置づけたとき、その意味はもはや、これは他者のコレクションであり、来館者であるあなたはそれを見学することができるということではなくなった。そうではなく、これはあなた自身のコレクションであり、したがって来館者であるあなたにとって意味あるものでなければならないという考え方が示されるようになった。					
[2]					
出題の意図を踏まえた回答の記述を求めています。					
【出題の意図】					
[1]					
(1)					
大学院で研究活動を進めていくに際して、知っておくべき博物館学に関する知識と、論述力を図ることを意図している。					

(2)

博物館学に関する英語文献の読解力と、専門知識に基づく適切な翻訳力を評価することを意図している。

[2]

現代のミュージアムに求められる社会的役割をどの程度理解しているかを問うものである。「包摂」と「多様性」の概念を正確に理解したうえで、それらを展示や教育普及活動の理念と実践に結び付けて論理的に論述する力を評価する。また、具体的な事例を踏まえながら、博物館の公共性や社会的責任について自らの見解を構築できるかを測ることを意図している。

合否判定の方法及び基準

入学試験は文学研究科のアドミッションポリシーに基づき、これを満たす学生を募集することを目的に実施しています。

合否判定については、本研究科のアドミッションポリシーを満たすことを、総合的な視点により合否を判断しております。